



幼保小中一貫教育プロジェクト

阿久比町小学生海外派遣事業



町では、小学生海外派遣事業として、毎年、小学6年生をシンガポールに派遣しています。

第10回目となる今回も、10人の元気な子どもたちが異国の地へと足を運び、生活習慣や文化を学びました。今回は子どもたちの手記から、その様子をお伝えします。(敬称略)

■ 問い合わせ先 学校教育課学校教育係 ☎(48)1111(内1230・1231)

【東部小学校 鎖是優希】

僕は、今回の海外派遣事業を通して、シンガポールの人口の約4割が外国人で、いろいろな文化の違いがある中で、お互いを尊重し合い、生活しているということを知りました。バディの子がとても親切に教えてくれました。きっと普段の生活から外国人を受け入れることに慣れているからではないかと思いました。



【東部小学校 山口誉】

2日目の午後に戦争記念公園の慰霊碑を訪れました。第一次世界大戦中に戦死してしまったマレー人、インド人、中国人たちの慰霊碑です。細く天にそびえるように立っているため、通称「チョップタワー」と呼ばれます。この慰霊碑の前で現地ガイドから説明を聞いていると、自然と「もうこんな戦争は二度と起こしてはならない」と思い、慰霊碑に向けて手を合わせて祈りました。

【東部小学校 久保田咲希】

私たち東部小学校の4人は、「日本の食・すし」について紹介しました。日本食は世界文化遺産に登録され、世界でも注目されています。だからこそ、正しい内容をシンガポールの学校で報告したいと思い、ミツカン酢の博物館にも行きました。発表するときは、伝わりやすいように拡大印刷した画像を提示したり、粘土の模型を見せたりしながら発表しました。



【東部小学校 原田理子】

私がビクトリーライフクリスチャンスクールで学んだことは、言葉が通じなくてもジェスチャーや気持ちでお互いの思いを伝え合うことができるということです。私とバディの子は、お互い猫が好きだということをお互いに伝え合いました。また、日本の「食」について発表しました。長文の英語を話すことは初めてでとても不安でしたが、みんなが笑顔で大きな拍手をしてくれてうれしかったです。